

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

石川県

学校名

川北町立川北中学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等学年特別活動、学校行事
学年総合的な学習の時間

時数等

17時間

目標・人権教育
のねらい

- ・互いのことを深く知り、互いに認め合い思いやる温かな人間関係をつくる。
- ・コミュニケーションスキルの向上を図り、性別を問わず多くの人と良好な関係を築く。
- ・正義と公正さを重んじ、いじめを許さない強い意識をもち、よりよい学校生活の実現に努めようとする意欲と態度を育てる。

実施した内容

- ・学級終礼の際に、当番がスピーチを行った。(毎日)
- ・構成的グループエンカウンターを定期的に行い、人間関係づくりを行った。(5時間)
- ・異学年交流の機会を行事ごとに設定した。(3時間)
- ・校外講師を招き、「学校生活がよりよくあるために」という演題でご講演いただいた。(1時間)
- ・子供の人権についてテーマを決めて調べ学習を行った。(3時間)
- ・調べた内容と提言をスライドにまとめ、発表した。(4時間)
- ・校外講師を招き、課題研究を進めるためのアドバイスをいただいた。(1時間)

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・生徒会主導で、その日の当番がスピーチを行った。1学期は「Specialityトーク」を行い、笑顔になったエピソードを、2学期は「Myrealトーク」を行い、実は〇〇や最近がんばっていることなどを話した。また、定期的に「1分間トーク」を行い、ペアやグループで話す機会を設け、多くの人と関係がつけられるように工夫した。
 - ・学期に1度、生徒会主導で全校生徒参加の模擬授業を行った。生徒会の生徒が、グループ学習の方法や授業の取り組み方等を具体的に示し、全校生徒でめざす授業像を共有するために工夫した。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

工夫した点

- ・運動会や合唱コンクール等の行事に向けて異学年交流を行った。体験活動を通して、他者を理解したり、相手の立場に立ったりできるように工夫した。
 - ・インターネットや本等、複数のものを活用して、正しい情報が何か判断しながら、調べ学習ができるようにした。また、必要に応じてアンケートの実施・検証も行った。
 - ・子供の人権について、自分事として捉え、どうすれば心身ともに健康で安全な環境で成長することができるのかを考えられるようにした。
- (地域や関係機関との連携)
- ・外部講師を招き、どのような学級・学校をめざすのかをグループ活動を取り入れながら自分事として捉えて考えられるようにしていただいた。

他教科との関連

- ・2年英語科において、「UniversalDesign」について学習をした。学んだことを活かして、総合的な学習の時間の課題研究を行った。
- ・3年英語科において「BeyondtheBorder」について学習した。総合的な学習の時間の課題研究で学んだことを振り返りながら、指導を行った。

事業成果

- 知識的側面:互いの考えは常に同じなわけではなく、異なることもあると理解し、他者の考えを受け止め、尊重することの大切さに気付いていた。
- 価値・態度的側面:人権講演会の事後アンケートには「いじめられている方にも何か悪いところがある場合があると思っていた。でも、悪いところがない人なんて一人もいないと聞いて、確かにそうだと納得し、それをいじめで解決するのは絶対にいけないと思った。相手を理解するためにコミュニケーションをとっていきたい」という感想等、相手をよく理解し、人とのつながりを大切にしていこうとする意欲が高まっていた。
- 能力的側面:「自分と同じように、相手のことを大切にしている」
 肯定的回答97.2%(4月)→98.4%(12月)
 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」
 肯定的回答89.2%(4月)→93.1%(12月)

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

石川県

学校名

川北町立川北中学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年家庭科

時数等

2時間

目標・人権教育
のねらい

- ・地域で活動する高齢者や見守りが必要な高齢者を理解する。
- ・地域で活動する高齢者や見守りが必要な高齢者とのかかわりを考える。

実施した内容

- ・家庭や地域の高齢者について話し合い、高齢者の困り感について考えた。(1時間)
- ・場面想定イラストを見て、自分ならどうするか考え、ペアでロールプレイングを行い、高齢者に対する理解を深めた。(1時間)

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・誰もが高齢者になることを確認し、支え合って生きていく視点について考えることとした。
 - ・簡単な介助をペアで行い、立ち上がりや歩行などの介助をする際の注意点等について考えられるようにした。
- 映像資料を使って場面を想定し、実生活でも高齢者と関わろうとする意欲が高まるようにした。また、高齢者との関わり方を疑似体験した。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

・3年社会科(公民)「社会福祉」で学んだことをふまえて、指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面:高齢者に関する正しい知識を身につけ、理解を深めることができた。
- ・価値・態度的側面:実践後の振り返りには、「これまで地域の高齢者に会った時には、声をかけてもらうことが多かったが、これからは自分から挨拶をした
い」や「高齢者の介助をする際には、コミュニケーションを図りなが
に必要としている介助が何かを考えて行動したい」という感想
が多く、自ら積極的に高齢者との関わりを持つようとする意欲が高まっ

側面:疑似体験をしたことで、高齢者への介助のスキルが高まった。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

石川県

学校名

川北町立川北中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等学2・3年
合的な学習の時間

時数等

8時間

目標・人権教育
のねらい

- ・同和問題についての興味・関心を高め、理解を深める。
- ・同和問題によって起きた偏見や差別問題の解消のために、中学生としてできることは何かを考え、実践しようとする意欲や態度を育てる。

実施した内容

- ・同和問題の歴史や差別の実態など、テーマを決めて調べ学習を行った。(3時間)
- ・調べた内容と提言をスライドにまとめ、発表した。(4時間)
- ・校外講師を招き、課題研究を進めるためのアドバイスをいただいた。(1時間)

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・インターネットや本等、複数のものを活用して、正しい情報が何か判断しながら、調べ学習を行った。また、必要に応じてアンケートの実施・検証も行った。
- ・同和問題について、自分事として捉え、どうすれば偏見や差別をなくすことができるかを考えられるようにした。

(地域や関係機関との連携)

- ・人権擁護委員の方をお招きし、課題研究を進めるにあたり、生徒一人一人に合わせてアドバイスをいただいた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

・3年社会科において、「身分制の下での暮らし」について学習した。その際には、総合的な学習の時間に学んだことを振り返らせながら指導を行った。

事業成果

知識的側面：同和問題の歴史や差別・偏見の実態について理解を深めた。

価値・態度的側面：事後アンケートでは、「身近なところで自由と平等が侵害されていると聞いた。噂や憶測で相手を判断せず、正しく理解した上で行動した

い」という感想が多く、偏見や差別のない社会の実現のために、コミュニケーションを図りながら相手のことを理解していこうとする意欲が高まっていた。

技能的側面：「自分と同じように、相手のことを大切にしている」

肯定的回答97.2%(4月)→98.4%(12月)

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

石川県

学校名

川北町立川北中学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年英語科

時数等

1時間

目標・人権教育
のねらい

- ・Black Historyについての理解を深める。
- ・人種による偏見や差別のない社会をつくるために自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・校外講師を招き、Black History等について講話していただいた。(1時間)

工夫した点

- (地域や関係機関との連携)
- ・ファンタジー小説作家をお招きし、ご講話いただいた。黒人差別の歴史や、黒人差別撤廃のために尽力した活動家について分かりやすくお話していただいた。また、その中で差別のない社会をつくるにはどうしたらよいのか生徒が考えられるようにした。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

・道徳において、「アンネのバラ」を教材として取り上げ、英語科の授業を振り返らせ、つながりを意識しながら指導を行った。

事業成果

知識的側面：黒人が歴史的に受けてきた差別と、それらにどのように立ち向かってきたのかについて理解を深めた。

面値・態度的側面：事後アンケートでは、「みんな平等に人としての権利を持っていて、それが脅かされることがあっては決してならないと思う。相手を理解し、尊重し合っていきたい。」という感想等、差別のない社会の実現のために、自分にできることは何かを考え行動していこうとする意欲が高まっていた。

支能的側面：「自分と同じように、相手のことを大切にしている」
肯定的回答97.2%(4月)→98.4%(12月)

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

石川県

学校名

川北町立川北中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・特別活動

時数等

2時間

目標・人権教育
のねらい

- ・ハンセン病問題が過去の問題ではなく「今」の問題であると認識し、その正しい知識を得るとともに、理解を深める。
- ・身近な場面でも起き得る偏見・差別という過ちを繰り返すことなく、偏見・差別のない社会を実現するために中学生として何ができるか考え、実践しようとする意欲や態度を育てる。

実施した内容

- ・ハンセン病の症状や歴史、これまでにあった偏見や差別について理解を深めた。(1時間)
- ・校外講師を招き、「私にとってのハンセン病 -過ちを繰り返さないために私たちにできること-」という演題でご講演いただいた。(1時間)

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ハンセン病問題について、自分事として捉え、どうすれば偏見や差別をなくすことができるのか、また中学生としてできることは何かについて考えられるようにした。
- (地域や関係機関との連携)
- ・ハンセン病回復者の方やハンセン病回復者支援センターの方をお招きし、講演会を実施した。講師と事前に十分な打合せをし、ハンセン病回復者の方の実体験や今もなお続く偏見や差別について映像資料等を用いて分かりやすくご講演いただいた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

・2・3年総合的な学習の時間において、ハンセン病に関する課題研究を行った。課題研究で学んだことを振り返りながら、人権講演会で学びを深めた。

事業成果

- ・知識的側面：ハンセン病の歴史や偏見・差別の実態を正しく理解することができた。
- ・価値・態度的側面：事後アンケートでは、「病気が治った後には、もう周りの人に打ち明けているものだと思っていたけれど、法律が変わった今でも話せずに苦しんでいると知った。後世にも伝えていきたい。」等、ハンセン病について正しい知識をもち、偏見や差別のない社会を作っていこうとする姿勢や意欲が見られた。
- ・技能的側面：「自分と同じように、相手のことを大切にしている」
肯定的回答97.2%(4月)→98.4%(12月)

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

石川県

学校名

川北町立川北中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

中学1～3年道徳

時数等

1時間

目標・人権教育のねらい

- ・インターネットを使う上でのモラルやマナーについての知識を深めるとともに、他者の思いや立場を考えて行動する実践意欲と態度を育てる。
- ・SNSやネットゲームが及ぼす影響について考え、望ましい生活習慣について理解を深める。
- ・スマートフォン等から情報を発信するときに注意すべき点について考え、人権を尊重する気持ちをもって適切に判断・活用する力を身に付ける。

実施した内容

- ・インターネットを利用したコミュニケーションでは、非対面性、匿名性という特性から、トラブルが生じやすいということを理解し、インターネット上でのコミュニケーションにおける心構えについて考えた。
(1年:教材名「言葉の向こうに」)(1時間)
- ・SNSやネットゲーム依存が、自分たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考え、依存に陥らない生活を送るために必要なことを考えた。
(2年:教材名「夢中になるのは悪いこと?」)(1時間)
- ・インターネット上の著作物の扱いと著作権について理解し、情報発信をする際に注意すべき点について考えた。
(3年:教材名「闇の中の炎」深めたいむ)(1時間)

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・導入で、これまでや現在の自分について振り返る時間を設けた。
 - ・グループ活動を取り入れ、他者の考えを知り自分の考えを深めたり、他者と自分の考えを比較したりできるようにした。
 - ・振り返りでは、自分事として捉えて考えられるような視点を与えた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

・2年技術科「安全に利用するための情報モラル」において、道徳で考えたことを振り返りながら、インターネット上で起こっている事例について話し合い、どう行動すべきかを考えた。

事業成果

知識的側面：インターネットを使う上でのモラルやマナーについて正しい知識を身に付けた。

面値・態度的側面：道徳の振り返りでは、「情報を発信する際には、守らなければいけない法律があると知り、全てに責任が伴うと分かった。本当に発信してもよいのかを正しく判断していきたい。」という感想等、相手の気持ちを考えて行動していこうとする意欲を高めていた。

技能的側面：「自分と同じように、相手のことを大切にしている」
肯定的回答97.2%（4月）→98.4%（12月）

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

石川県

学校名

川北町立川北中学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等学1～3年生・
別活動

時数等

1時間

目標・人権教育のねらい

- ・性の多様性について理解を深め、性的指向や性自認を理由とする差別や偏見のない社会をつくるために自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。
- ・性の多様性について、正しい知識と認識を深め、誰もが一人の人間として、自分らしい生き方のできる社会をつくろうとする意欲を育てる。
- ・互いの考えを尊重し、同意を得た上で行動することの大切さについて理解を深める。

実施した内容

- ・校外講師を招き、LGBTQ+、SOGIE等について講話していただいた。(1時間)

工夫した点

- (地域や関係機関との連携)
- ・石川県助産師会の方を講師としてお招きし、授業を実施した。講師と事前に十分な打合せをし、事例をもとに生徒にとって身近な内容から性の多様性について講話していただいた。
 - ・性について相談したり、されたりした際の対応の仕方などをスライド資料を用いて、具体的に示していただいた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

・保健体育科において学習した、「異性の尊重と性情報への対処」をふり返らせながら講話を行った。

事業成果

- ・知識的側面: 様々な性があることや自己の性について自己開示できずに悩み、苦しんでいる人達の実態を知り、正しい知識を身に付けた。また、必ず互いの同意があった上で、行動することの大切さについて理解を深めた。
- ・価値・態度的側面: 事後アンケートから「性について打ち明けてくれる友達がいた時には、相手の思いを受け止めてあげたい。」や「世の中には様々な人がいることを理解する気持ちを持ちたい。また、打ち明けたいと思ってもらえるように、日頃から信頼関係を築いていきたい。」という感想等、性の多様性を受け止め、理解しようとする態度や意欲が高まった。
- ・技能的側面: 「自分と同じように、相手のことを大切にしている」
肯定的回答97.2%(4月)→98.4%(12月)